

平成31年 2月

堤玲子 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久

副主査 林 一 彦

同 山 元 修

主論文

Leukoderma induced by rhododendrol is different from leukoderma of vitiligo in pathogenesis: a novel comparative morphological study

(ロドデンドロール誘発性脱色素斑は尋常性白斑の脱色素斑と病因において異なる：新しい比較形態学的研究)

(著者：堤玲子、杉田和成、阿部優子、穂積豊、鈴木民夫、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成31年 Journal of Cutaneous Pathology 46巻 123頁～129頁

参考論文

1. Disseminated *Mycobacterium chelonae* infection identified by repeated skin sampling and molecular methods in a patient with rheumatoid arthritis

(関節リウマチ患者に生じ、複数回の皮膚検体採取と分子生物学的手法により同定した播種性 *Mycobacterium chelonae* 感染症)

(著者：堤玲子、山田七子、吉田雄一、中永和枝、石井則久、山元修)

平成28年 Acta Dermato-Venereologica 96巻 132頁～133頁

2. Nagashima-type palmoplantar keratosis with melanoma: absence of epidermal Langerhans cells in hyperkeratotic skin

(悪性黒色腫に合併した長島型掌蹠角皮症：角化部皮膚における表皮ランゲルハンス細胞の欠如)

(著者：堤玲子、吉田雄一、山田七子、足立香織、難波栄二、山元修)

平成29年 European Journal of Dermatology 27巻 210頁～212頁

審査結果の要旨

本研究は、社会問題にもなった美白化粧品による皮膚障害であるロドデンドロール誘発性脱色素斑に関し、患者の生検組織の病理組織像において特徴的な形態学的所見を見出し、極めて酷似した臨床症状を呈する尋常性白斑の病理組織と比較することで両者の鑑別点を明らかにしたものである。この2疾患は光学顕微鏡的レベルでは共通した特徴を有しているが、電子顕微鏡的レベルの微細構造は異なっていたこと、ロドデンドロール誘発性脱色素斑はメラノサイトのメラニン合成を主座として形態学的変化を生じるが、メラノサイトの細胞小器官の変性を伴わず、可逆的な臨床経過と合致することを報告した。様々な角度から形態学的検討を行い、微細構造および病態の違いを明らかにした点で学術水準を高めたものと認める。